

[成果情報名] 「ソーラーローズシステム」におけるバラの台木の種類と切り花本数

[要約] バラの低コスト・省力生産技術「ソーラーローズシステム」では、オドラータ台木苗、ドクタービュー台木苗、自根苗（挿し木苗）の生産性は、ノイバラ台木苗と同等である。

[キーワード] バラ、ソーラーローズシステム、台木

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・花き科

[連絡先] 電話0957-26-3330、電子メールarakabu@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 花き

[分類] 研究

---

[背景・ねらい]

バラの土耕栽培では通常、接ぎ木苗を定植する。この台木にはノイバラをはじめ数種類の台木が用いられている。

一方、本県で開発したバラの低コスト・省力生産技術「ソーラーローズシステム」は、バラ本来の力を引き出す高品質・多収穫生産技術としても注目されている。

そこで、「ソーラーローズシステム」において、台木の種類とその生産性を、自根苗も含めて検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「ソーラーローズシステム」では、オドラータ台木苗、ドクタービュー台木苗、自根苗（挿し木苗）の切り花本数は、ノイバラ台木苗と同等である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

[具体的データ]

表1 「ローテローゼ」の1株当たり階級別切り花本数

台木の種類	70cm以上	60～70cm	50～60cm	40～50cm	合計
ノバラ	12.8本	8.8本	5.4本	3.0本	30.0本
ホトラータ	15.2	8.4	3.6	2.4	29.6
トクタービュー	16.5	7.4	3.1	1.5	28.5
自根	15.0	6.0	4.5	3.0	28.5

注) 調査期間 2004年9月6日～11月30日

[その他]

研究課題名：施設花きの低コスト・省力生産技術確立

予算区分：県単

研究期間：2002～2005年度

研究担当者：出口 浩、諸岡淳司、松尾崇宏